

# こまざわ

# 経済通信

発行  
駒澤大学経済学部  
同窓会  
〒154-8525  
東京都世田谷区駒沢  
1-23-1

## いま経済学部は

経済学部教授 友松 憲彦

本年、創立六十年を迎えた経済学部の現状についてレポートをお届けします。

折しも六十年目の記念すべき年に、平成一九年度から募集を開始した現代応用経済学科が四年目の完成年度を迎え、経済学科、商学科とあわせて三学科体制となり経済学部の歴史は新たな段階に入りました。

平成二十二年度の入学試験では、経済学部の志願者は九一九六（昨年度比二三五二増）でした。在籍学生は一年八五五、二年八六六、三年八三〇、四年一〇五四、学科別では経済学科一八一〇、商学科一四〇一、現代応用経済学科六五五の合計三六〇五で、文学部に次ぐ大所帯になっています。

これに対する教育体制は、専任教員（教授、准教授、講師）四七、客員教授三、非常勤講師六七のスタッフが担っています。経験豊富な多数のベテラン教員を擁する一方、世代交代も着実に進み、学界の一流やジャーナリズムやマスコミでも活躍する優秀な若手教員が増加しています。また、女性教員が五名になったことも経済学部の変化を示すものでしょう。

教育システムに関しては、経済学、商学、経営学の基礎的な理論や知識の教育が大学の基本的使命であることはいささかも変わりません。

全専任教員が担当する合計一三〇の演習（ゼミ）が二年生から開設されているのは、経済学部の誇る伝統といえます。しかし大学が社会の変化に対応するには、多様化する学生の教育ニーズに応え、教育の新しい在り方を常に模索することが求められています。そうした模索から資格取得や「生きた現実」を学ぶための科目も開設されました。

例えば、「現在経済事情」は多彩な講師が自らの社会経験を踏まえて現実の「生きた経済」を講義しています。資格取得に関しては、公認会計士、税理士、IT専門家をめざす「プロフェッショナルクラス」を専門学校と提携して提供し、めざましい成果をあげていることは本紙でもお伝えしたところでです。

企業や外部団体による「寄付講座」の開設も新しい大学教育の在り方を示す一つの事例といえるでしょう。本年の特筆すべき寄付講座は東京税理士会提供の「ビジネス事例研究」であり、本学出身の一二名の税理士により税理士制度、税制度、国際会計基準、事業承継等についてリレー講義がおこなわれます。（九月より開講）卒業生による教育がどのような成果をあげるか期待されます。また企業や団体での現場研修を伴う「ビジネス・インターンシップ」も実施していますが、卒業生の皆さまからも多数の研修先を紹介していただき大きな成果をあげております。

経済学部発展のためには、社会との不断の交流を通じて教育システムの改革を推し進める必要があります。経済学部教育の充実、発展のために、卒業生の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 退職される先生・就任される先生

平成二十一年三月をもって、吉野 紀先生（昭和四十一年就任、勤続四十三年、国民所得論・統計原論担当）が定年退職を迎えられ、古沢絃造先生（貿易論担当、昭和四十八年就任、勤続三十六年）も退職されました。両先生の長年にわたる経済学部への御尽力に心より御礼申し上げます。

一方、新年度より吉田真広先生、（貿易論・国際金融論担当）、矢野浩一先生（統計原論・応用マクロ経済学担当）をお迎えしました。就任の言葉を掲載します。

（「駒澤大学学園通信」第二九二号より転載）

### 国際関連の科目を担当



経済学部教授  
吉田 真広

今年度から貿易論と国際金融論を担当する吉田真広です。以前、駒澤で教えていた時期もありますので、キャンパスには懐かしさを感じています。また、前赴任大学の所在地は、曹洞宗本山がある福井県の永平寺町ですので、本学とは何かと縁があります。

講義担当科目は国際関連ですが、ゼミでは参加者の関心に応じて、金融経済、日本経済、各国経済なども取り扱うつもりです。大学本来の専門性の高い密度の濃い授業は少人数のゼミで

### よく学び、よく遊べ



経済学部准教授  
矢野 浩一

こそ活かすことができますので、ゼミ活動には力を入れていきたいと考えています。

研究論文は金融制度や為替相場などの分野が多いのですが、ここ数年は国際通貨と中国金融制度について執筆する機会が増えていきます。

四月から統計原論と応用マクロ経済学の講義を担当します。出身地は愛媛県松山市です。

私の専門は統計学の手法を用いて経済や社会のデータを分析する応用統計学です。たとえば、現実の経済データを用いて社会の変化などを捉える研究をしています。

講義やゼミではぜひとも皆さんと現実の経済や社会の統計、ミクロ経済学・マクロ経済学・ファイナンスの知識を用いて、実践的なデータ分析を学んでいきたいと思っています。

それと同時に大学生時代は多くの友人に恵まれます。よい思い出を作る素晴らしい時期でもあります。学生の皆さんはぜひとも四年間で「よく学び、よく遊べ」を実践してください。

### 思い出と現状

駒澤大学名誉教授 中原章吉

今住んでいる家は、旧家屋をとりこわして建てた三階建てで、息子の家族と二世帯住宅として昨秋新築した。その旧家屋は、駒澤大学に着任して専任講師として教壇に立っていた、そして今一緒に住んでいる息子が生まれたばかりの赤ん坊であった頃に現在地に新築した家であった。その建築中には、駒澤大学まで歩いてかよえる程に近いアパートを借り、多くの荷物を駒澤大学の研究室に収納したものである。その研究室にしても、個室ではなく、現在、駒澤大学名誉教授の飯岡透先生と同居していた。

その頃は、経済学部の大学院はとくに存在していたが、私も専任講師は学部の講義とゼミだけを担当していたものである。大学院を担当するようになったのは、それからずっと後のことで、教授になって何年かたってからだったと想う。多くの教え子を担当して大学のゼミの教え子の数が四百名余にもなっていたのは今になってみると、またたく間であったように感じられる。

研究室は、大学と共に大きくなっていったが、収納する図書の増加のほう加加速度的で、研究室にもりこぼれるばかりとなり、月刊の研究誌などは、研究室におけなくなってしまうような状態であった。

大学の拡大と図書文献の増加は、後者が前者を上まわって、私の在職中でも、図書館に私のゼミで毎年出版していた論集を収納していただけるのが有難いと想えるほどであった。私のゼミの論集は現在も出して四十巻をこすが、

『会計研究』という表題で、駒澤大学図書館に収納保管してもらっている。

私は、駒澤大学で現役の教授であった頃から、自宅と研究室に収納してあった図書の処理について、あまり計画的に考えてはいなかったが、この大学の図書館でも、大きい大学ほど所蔵図書の収納に苦心しておられる現状をみて、すこしづつ、自分の教え子や関係者の専門研究者の方々に受取ってもらうようにしている。今日ではかなり整理できたように思うような状態になっている。



現在、喜悅大学教授をへて、松蔭大学大学院の専任教授として教壇に立っているけれども、指導している受講者の取扱いととも、研究者として、どのように研究を続けていったらよいか、考えさせられる多くの問題を抱えている。

自己の能力の許す限り、研究者としての歩みを、一歩でもすすめていきたいと考えているけれども、なかなか思うにまかせない。

これまで多くの方々のお世話をいただいてこゝまでやって来られたことについては、心から感謝の念にたえない。

### 戦時中の駒大周辺

子供の頃の思い出

駒澤大学名誉教授 渋谷隆一



私は十七年三月に駒沢小学校を卒業した。当時、駒沢は東京でも、のどかな田園風景を残した地域であった。その駒沢地域が大きく変貌したのはオリンピック（昭和十五年に予定され、同四十八年によりやく実現をみた）の開催と、駒大の飛躍的な発展とそれに伴う交通機関の整備であったように思う。

まずは、駒大キャンパスに隣接した旧駒沢ゴルフ場と、駒沢大の昭和三十年代から四十年代以降の飛躍的な発展にともない、キャンパスは近代的な高層建築に様変わりした。それ以前はいまの1号館、2号館、旧図書館と学生の寄宿舎二棟（木造）、柔剣弓道場、運動場のみであった。



正門横

子供の頃の遊び場はなんといっても運動場で、よく野球をした。その遊び仲間には小川靖（父が駒沢大の図書館長）、故内藤法美（府立一中旧制一高、越路吹雪の夫、父が海軍軍楽隊の隊長）、山西能夫（都立千歳中、陸軍幼年学校）や、奥田清（都立千歳中、東レ）たちであった。戦時中のことで、陸海軍の学校志望が多かった。山西は名古屋陸軍幼年学校、小川と私は海軍兵学校に合格し、入学を待っていた。

その運動場での秋の大学運動会は学生だけでなく、町の住民たちも参加し、盛大であった。中でも仮装行列では蒋介石とかヒットラーとかムッソリーなどが登場し、面白かった。さらに住民との繁がりが深いのは、1、2号館前の広場で毎年盆踊りが行われたことだ。また、毎日曜日には小学生や幼児を対象とした日曜学校が

あり、勉強会や佛教行事を、影絵をまじえ、楽しく学んだ。このように駒沢大学生は住民と密接にコミュニケーションをとりながら、地元の伝統文化を大切にし、その社会文化の発展に寄与していたと思う。

戦時中の忘れられない悲しい思い出。それは第二次大戦中（大平洋戦争）、昭和十八年十月の学徒出陣であった。国家のために強制的に入隊する、その為に郷里に帰る駒沢大の学生たちを、玉川線駒沢駅まで別れを惜しみつつ、見送りした。その彼らは戦場でどんな思いをしたであろうか。

大学の南に隣接していたゴルフ場は、われわれ仲間の遊び場であった。雪が積るとスキーやソリの楽しい遊び場になった。そのゴルフ場と大学との境に溝があり、早春には新緑のせり摘みをした。その溝と駒大との境には、ほどよい空間があり、戦争ごっこに恰好の場所であった。

大学の北方に、駒沢小学校、タンチ山、三井家の別邸、お化け屋敷があったが、この周辺は戦後まもなく大住宅地となり、お化け屋敷などは撤去されてしまった。住民のいない放置された家はお化け屋敷といわれ、子供たちにとって恐怖の場所であった。

おわりに、年末、年始のとても嬉しいポロ市の思い出を記し、ペンをおく。世田谷の代官屋敷を中心に、徳川中期以降ポロ市がに設けられ、その催しは現在も盛んである。小学生のころは、毎年その翌日に教室で物まねをし、仲間たちが楽しんだ。物の交換や売買物品は主に学用品で、大きな掛け声をかけあったものだ。

梟とスワヒリ語  
駒澤大学名誉教授 古沢 紘造

昨夜、裏山で梟の鳴く声を久しぶりに聞いた。初めて鳴き声を聞いた時は、森の暗闇に何かか潜んでいるような気がして薄気味悪い感じがした。でも今では「ホッホ、ホッホ」と遠慮がちになく声がいとおしくさえある。妻に「鳴いてるよ」とわざわざ知らせに行くほどだ。



キャンパスの猫

私は一九七九年から八一年まで留学期間を取り、タンザニア（東アフリカ）で暮らした。その時、スワヒリ語の家庭教師の先生に鶏の鳴き方

を尋ねたことがある。すると「ケツケレ、カツカラ」（さらに擬音が続くが残念ながら思い出せない）と鳴きまねをしてくれた。つい鳴きまねを何度もやらされてしまった。今度、タンザニアに行ったら梟の鳴きまねを教えてもらおうと思う。ただそれが夜の静けさを台無しにするようなへんてこなものでないことを祈る。

スワヒリ語で梟のことをブンデイ (bundi) と言う。スワヒリ語研究書編『スワヒリ語ー英語事典』で引くと、「owl (梟)、night bird (夜鳥)、bad omens (凶兆)」と出てくる。また同研究所編『標準スワヒリ語事典』を調べると、「夜にだけ飛ぶ大きな鳥。暗闇でも見える大きな目を持つ。一般に不幸あるいは悲哀をもたらす鳥と考えられている」とある。

西欧では梟はミネルバ（ローマ神話の智恵と芸術の守護神）の従者とされ、智恵と芸術の象徴となっているが、タンザニアでは非常に悪いイメージを持たれているのである。日本では語呂遊びで「不苦労」（苦労がない）「福籠」（福が籠る）などの当て字がなされ、梟が縁起物として商売繁盛のお守りになっているから面白い。さて退職後だが、このあきれほど大ざっぱな辞書を呪いながらも、梟の声に癒されスワヒリ語の世界に浸ればと願っている。

学生時代の思い出  
石塚 武  
(昭和四十三年卒業)

今年の桜も散り、東京は緑が眩しい季節になりました。卒業から早四十年が過ぎ去りました。学生時代の三軒茶屋は玉電（路面電車）が走り、何となく昭和の街でした。映画館（二四六沿い）



現在の三軒茶屋駅（世田谷線）

があり、夕方になると屋台が出ます。仲間六名は月末になるとバイト手当、親からの送金が入り、それぞれがたかり、おでん、焼酎を飲み豪華な数日をすごし、残りは学食で掛け蕎麦の日々を過ごしました。

あの頃何を考えていたのか思い出してみます。バイトをやり過ぎ単位不足、追試でやっと卒業できた二十二歳、社会人第一歩で選択した職業は「セールスマン」、強い意志を持ち自分に自信を持てる「男」になるぞ、俺は田舎人（北海道出）東京に家を買うぞ、家族を持つぞ、独立をするぞと思いつつ三十代、四十代、五十代と夢中に走り続けました。その間に年長者から「生きた知恵」を付き木としてもらおうと実行致しました。突然、先輩から「学生時代の思い出」を書い





駒沢細谷会先生を偲ぶ 広州名菜富徳にて 2010・4・3  
相原栄治氏(商経学部45年卒)提供

てほしいと言われ、当時を振り返ると想い出の  
一コマが動き出しました。駒沢のプレハブ・か  
まぼこ校舎、矢吹教授の授業(東都リーグ創立の  
一人、東急「駒沢大学」駅名運動起案者)OB  
会の先輩諸氏(経済学部、金融業界が多い)、軽  
音楽の仲間(スタンダードジャズ十一名編成、や  
りすぎで卒業危うくなり解散)、幾つかのコマが  
頭に浮かんできます。

学生は今も昔も変わらない。夢と希望を持ち  
続け、時代を泳いでいくものです。第二の人生  
にさしかかった六十代の私達、同じ時代をこれ

からも生きていきます。私達は生きる知恵は君  
達より少しあり、逆に冒険、やる意欲、夢を見  
続ける気力、体力はあなたの方があります。  
「アクティブ、シンキング」前向きな思考でが  
んばりましょう。

私は全国の理工系の大学生、院生を社会に  
送り出す就職支援会社を若者と一緒にやってお  
ります。社会も大きく変化し続けております。

世界で役立つ人間力の大切さを感じ取って、有  
意義な日々を送って下さい。

### 公認会計士試験に 経済学部三年生が現役合格

平成二十一年の公認会計士試験で、会計プロ  
フェッショナルクラスに所属する経済学部3年  
の松浦政文君が見事に合格の栄誉を勝ち取りま  
した。現役学部生、しかも3年生ということ、

短期間に着実に前進した努力を称えたいと思  
います。公認会計士試験の最近の全体の合格率は、  
平成十九年が14・8%、平成二十年が15・  
3%と推移しましたが、平成二十一年は9・4  
%と落ち込みました。そうした中で現役合格

ですから本当に価値のある合格といえるでしょ  
う。このほかにも、平成二十一年公認会計士試  
験では本学関係者から4名の合格者が出ていま  
す(経済学部2名、経営学部2名)。いずれも  
卒業生で、平成十年に卒業した方から平成二十  
年に卒業した方まで年齢には幅がありますが、  
社会に出た後も強い意志を持って難しい国家試  
験に挑戦し、見事に結果を出されているOBが  
いることは大変強く、嬉しく感じています。

公認会計士になるためには短答式試験(いわゆ  
るマークシート式試験)と論文式試験の2つを  
パスしなければなりません。会計プロフェッ  
ショナルクラスには松浦君と同じく3年生で短  
答式試験に合格した学生が2名いますので、次  
回の論文式試験ではぜひ努力の成果を結果に結  
びつけてもらえればと期待しているところで  
す。

一方、税理士試験ですが、こちらも大変難し  
い試験であるにもかかわらず、平成二十一年税  
理士試験では、簿記論に経済学部4年生が1名、  
3年生が1名、財務諸表論に3年生が1名合格  
しています。税理士になるためには簿記論、財  
務諸表論という会計2科目以外に税法3科目の  
合計5科目に合格しなければなりません。難

易度が高いため、すべてに合格するには特に早  
い人で2年、1年に1科目と考えれば5年を要  
します。先を見ずして早い時期から地道に努力  
を重ねている学生にエールを送りたいと思いま  
す。今後より多くの学生が合格できるように支  
援していきます。  
(経済学部教授 森田佳宏)

### 経済学部創立六十周年記念 奨学論文の入選作

経済学部創立六十周年記念行事の一環として、  
経済学部学生を対象に奨学論文を募集しました。  
学生たちは日頃のゼミや授業で関心をもったテ  
ーマについて、研究の成果をまとめました。応  
募論文には審査委員の予想と期待を超える水準  
のものが多数あり、大学院レベルと評価された  
研究もありました。審査の結果、最優秀賞1、  
入選5、佳作3が選ばれました。学生の高い勉  
学意欲と先生方の熱心な指導があいまって、経  
済学部六十年の伝統にふさわしい成果をあげる  
ことができました。

#### 《最優秀賞》

経済学科4年 相沢 暁彦

#### 「資本主義社会における

#### ゲマインシャフトの理論的分析」

#### □最優秀賞論文・要旨

コミュニティを崩壊させながら形成されてき  
たはずの資本主義社会において、コミュニティ  
に対する近年の関心の高まりをどう理解すべき  
か?それが本研究の問題意識であった。この問  
題を解明するために、本論文では、コミュニテ  
イ論や市民と社会との関係を分析する際に多用  
される、ドイツの社会学者フェルディナンド・

テンニースによって規定された社会類型論である「ゲマインシャフト」と「ゲゼルシャフト」の理論を軸として、資本主義社会と「ゲマインシャフト」社会としてのコミュニティ概念との関連を、その有無も含めて理論分析を行うこととした。

まず、テンニースの「ゲマインシャフト」概念を検証しつつ、マルクスの「共同体」論との対比を行った。そのうえで、ゲマインシャフトがゲゼルシャフトに移行する契機について「生産関係」に重きをおいて考察した。テンニースとマルクスは、共に両社会類型間の移行の契機を市民社会の成立においている。市民社会では、自由と平等を獲得した個人市民が私的所有を前提とする自由な契約を基礎として、自由な商品交換を行うことが可能である。しかし、契約の自由を獲得するということは同時に階級分裂すなわち「不自由・不平等」を生じさせる。この「不自由・不平等」をもたらしたものは資本の価値増殖運動・資本蓄積であり、この運動の行き着く先は「疎外された労働」であった。

これらの分析をもとに、当初の課題であったゲゼルシャフト的社会である現代社会におけるゲマインシャフトとの関係について、「ゲゼルシャフト」的社會である現代の社会システムが「ゲマインシャフト」を希求する根拠を形成していることを明らかにした。すなわち、資本の価値増殖運動によって引き起こされる自由な個人による過度な競争を原因として「ゲゼルシャフト(個別性)」の人間からの疎外、また過度な競争による弊害の顕在化などの資本主義社会の存続が危機的状況に陥り、この事態に対する処方箋として「ゲマインシャフト的要素」である「共同性」が求められているのである。

□最優秀賞論文・講評

(奨学論文審査委員会委員長)

経済学部教授 有井行夫

本論文は、テンニースのあまりにも有名な著書、『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト』から2つの社会類型、「ゲマインシャフトとゲゼルシャフト」を学び、この類型論によって、マルクスの資本主義概念を深め、もって、われわれの現代社会、すなわち、ゲゼルシャフトにおける「疎外」をとらえ、人類の未来の構想としてゲマインシャフト的要素の復権を提案する。まことに壮大な構想であるが、問題意識はきわめて妥当である。「ゲマインシャフトとゲゼルシャフト」の類型論によってマルクスの資本主義社会の断面は正確にとらえられるのである。テンニースが、実は、このような意義のものであることを主張した論者を私は知らない。

ゲマインシャフトとは端的に「共同体」ないし「共同性」である。他方、ゲゼルシャフトは「市民社会」ないし「市民社会性」である。人間そのものはもとより、人間社会とは、この共同性と市民社会性の統一なのである。統一でありながら、どちらかのモメントに偏倚することによって時代の特性を表わしていると言つてよい。資本主義的生産(商品生産社会)に先行する諸時代は共同体的モメントが優越し、したがってゲマインシャフトであり、資本主義的生産においては、個人的モメントが優越し、したがってゲゼルシャフトであり、資本主義に後続する社会においては、ゲマインシャフトとゲゼルシャフトのバランスのとれた統一が予測される。マルクスに親しんだ人ならば、ゲマインシャフトとゲゼルシャフト論にリンクして『経済学批判要綱』貨幣論の末尾、人類史の三段階論を想起するであろう。しかし相沢の主張は、歴史ではない。資本主

義を克服する未来社会に向かっている。そのばあい、ゲゼルシャフトは、なによりも疎外された社会である。他方、社会主義への道は、ゲマインシャフト性の復権として理念的にとらえられる。現下の日本において、自民党は新古典派たることを宣言し、民主党は再版ケインズ主義を競うのもうとがいていいる。民主党は効率主義を競うのではなく、ワークシェアリングを主軸政策にして、ゆつたりとしたライフスタイルを提案すべきである。このように相沢のゲマインシャフト論は語っているようにみえる。相沢論文は、今後、どのように深めることも可能である。

経済学部六十周年の懸賞論文募集が力作によって応えられたことを慶びたい。

□最優秀賞論文の「本文」は、駒澤大学経済学部ホームページ (<http://www.komazawa-u.ac.jp/gakubu/keizai/>)に掲載しています。

《入選》

- 経済学科4年 松本光生 「ベーシックインカムの有効性と限界」
- 商学科4年 日野麻美 「近代日本の修学旅行」
- 経済学科4年 渡辺友里絵 「非営利法人会計の特性」
- 経済学科4年 高木康行・三原昭彦・村瀬勝彦 「商店街の観光地化」
- 経済学科4年 新城健太 「人間らしさを求めて」
- 《佳作》
- 経済学科4年 田中雄規 「発展途上国における内発的発展の可能性と限界」
- 経済学科4年 神崎陽一 「資本主義制度の下でのワーキングプアの必然性」
- 経済学科4年 小野田敦 「途上国はなぜ一次産品依存の経済体制から抜け出せないのか」

石井啓雄先生の

ご逝去を悼む

石井啓雄先生は、東北大学を卒業され、長く農林省(現農林水産省)に勤務されたのち、一九七八年四月より経済学部教授(経済政策担当)として駒澤大学に赴任されました。爾来、二〇〇二年三月に定年退職されるまで、経済学の教育および研究に精力的に取り組まれ、また学部運営の面でも、一九八三年に第二部経済学科主任、一九九一年に経済学部長の職に就かれて、幾多の困難な問題の処理に当たられました。

学生に対して、勉学面では大きな声で厳しく指導しておられたのですが、ゼミなどでは一人一人の学生に対して、親身になって対応しておられたのが印象に残ります。研究の面では、日本の土地問題を主要なテーマとしておられ、土地所有の実態を厳密に把握されるべく調査・研究を続けられ、多くの成果を公表されました。退職されてからは、春の経済学部懇親会でお会いするのを楽しみにしておりましたが、もうそれも叶わぬこととなりました。先生のご冥福をお祈りいたします。

(経済学部教授 大石雄爾)

## 経済学部同窓会長賞を9名が受賞

平成20年度卒業式は3月25日におこなわれ、経済学科昼間主431名、経済学科夜間主128名、商学科278名、合計837名の新たな経済学部卒業生が誕生しました。

在学中は勉学や課外活動に積極的に取り組み、リーマンショック後のきびしい経済状況のなかで就職活動にも優れた成果をあげた下記の9名が経済学部同窓会長賞を受賞し、卒業式で賞状と記念品(万年筆)を授与されました。

経済学科昼間主：坂原 英幸、 鈴木 克己、 難波 和樹

経済学科夜間主：久多良木直子、櫻井 充、 彦坂 悠太

商学科： 佐藤 穂波、 木村 建史、 吉田 祐一

(久多良木直子さんは曹洞宗管長賞と学長賞、坂原 英幸さんと佐藤 穂波さんは曹洞宗管長賞を同時受賞しました)



商学科 吉田祐一さん



商学科 佐藤穂波さん

### 集え ホームカミングデーに!

ホームカミングデーは卒業生の皆さまを母校に招待し、恩師や学友との旧交を温めていただき、本学の発展を見ていただくための企画です。今年度は11月6日(土)に開催されます。大学から卒業後の経過年数で節目にあたる卒業生に招待状が送られますが、それ以外の卒業生やご家族もゲストとして自由に参加できます。受付には商経学部・経済学部のブースを設けますのでお立ち寄りください。「経済学部同窓会報」の配布や「経済学部創立60周年記念DVD」(1000円)の販売もします。また懇親パーティ会場には出会いの場を設けます。オータム・フェスティバル(大学祭)も同日開催されますのでお楽しみください。

★新同窓会員紹介(平成21年卒業) 阿部歩美、解良有華子、青木秀泰、小畑知佳子、中川高仁、武藤晋

### 経済学部同窓会事務局からのお知らせ

#### ◎経済学部創立60周年記念DVDができました。

経済学部の歴史と現在の学内風景、入学式、卒業式、ゼミナール連合の活動、オータムフェスティバル等の学内行事、資料を収録したDVDが完成しました。

ご希望の方は氏名、卒業年度、卒業学科、住所、電話番号を記入し、料金1000円(送料込)を下記の口座にお振り込みください。ホームカミングデー(11月6日)でも販売します。

#### ◎新入会員の増加にご協力を

同級生、ゼミやサークルの仲間、地域のお知り合いで「経済学部同窓会」に加入していない方がおられましたら入会をお勧めください。

入会手続きは、氏名、卒業年度、卒業学科、住所、電話番号を記入のうえ、下記の口座に同窓会費を納入することで完了します。

・会費:年会費2000円×3年分=6000円(会費は3年分を一括納入します)

#### ◎「こまざわ経済通信」の原稿募集

同窓会報の充実をはかるため卒業生の原稿を募集しております。積極的なご投稿をお願い致します。

・論題:自由 ・字数:800字以内 ・送付先:駒澤大学経済学部同窓会事務局

\*なお、原稿の採否は編集委員会にご一任ください。

#### ◎ホームページについて

「駒澤大学経済学部」のホームページ(<http://www.komazawa-u.ac.jp/gakubu/keizai/>)から「経済学部同窓会」のホームページに入ることができます。

#### ◎総会予告

次の第6回経済学部同窓会総会は平成23年11月5日(土)に開催されます。

| 銀行振込口座 |              | 郵便振替口座 |                |
|--------|--------------|--------|----------------|
| 口座名義   | 駒澤大学経済学部同窓会  | 加入者名   | 駒澤大学経済学部同窓会    |
| 銀行     | みずほ銀行 駒沢支店   | 口座番号   | 00190-1-614809 |
| 口座番号   | (普通) 2062314 |        |                |

駒澤大学経済学部同窓会事務局 〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1